

出雲家庭医療学センター
リハビリテーションフェローシッププログラム

ベーシックコース
Ver1.1

出雲家庭医療学センター

出雲市民病院

【目次】

- ・ コンセプト
- ・ 教育プログラムの背景
- ・ 概要
- ・ 対象
- ・ 研修期間
- ・ 研修施設
- ・ 指導医
- ・ アウトカム
- ・ マイルストーン
- ・ フェローの課題と評価
- ・ 教育方略
- ・ 処遇
- ・ 応募方法
- ・ 参考文献

**後期研修修了の
その先へ！**

【コンセプト】

家庭医，総合診療医が，家庭医療×リハビリテーション医療を身につける教育プログラム

【教育プログラムの背景】

日本プライマリ・ケア連合学会の家庭医療後期研修においてリハビリテーションは必須の項目として組み込まれています。しかし多くの家庭医がリハビリテーションの臨床能力は必要と考えているにも関わらず、リハビリテーションに関しての「自信の無さや不全感，卒前卒後の教育の不十分さ」を認めています^{1,2)}。

当院では，内科病棟診療において家庭医・総合診療医の集団が主力メンバーとなっており，内科系 Common disease の入院診療と，リハビリテーション専門医とセラピストとの密な連携によるリハビリテーション医療の提供を同時並行的に行っています。まさに中小病院の家庭医療とリハビリテーション医療のコラボレーションが実現しており，県内でも群を抜いた診療クオリティであるという自負を持っています。前述の環境において家庭医療・総合診療にリハビリテーション医療学の知識・技術を融合できる教育を提供する事で，家庭医・総合診療医の自己実現ニーズに応えるフェローシッププログラムです。

【概要】

出雲市民病院リハビリテーションフェローシッププログラムは，家庭医療後期研修修了者を対象とした，1年間のフェローシッププログラムである。診療スキルアップを目的とした教育プログラムであり，専門医機構との認定制度とは関連していない。

しかし，当プログラムでは日本リハビリテーション医学会の認定研修施設である出雲市民病院で1年間の研修であるため，同学会の臨床認定医試験受験のための研修期間と見なされる。

【対象】

日本プライマリ・ケア連合学会認定の家庭医療後期研修，あるいは日本専門医機構認定の総合診療専門研修を修了した，卒後15年以内の医師。

【研修期間】

1年間

※出雲市民リハビリテーション病院もローテートする2年間のアドバンスプログラムもある

【研修施設】

出雲医療生活協同組合 出雲市民病院（〒693-0021 島根県出雲市塩冶町1536-1）

【指導医】

高橋賢史(プログラムディレクター)：日本プライマリ・ケア連合学会認定家庭医療専門医・指導医

松原美和：日本リハビリテーション医学会認定専門医・指導医

【アウトカム】

総合診療・家庭医療の診療能力に、リハビリテーション医療学の知識と技術を融合した診療スタイルを
実践できる。

【マイルストーン】

- ・ リハビリテーション医療の基本的な考え方を理解する。
- ・ 出雲市民病院内科入院患者に対してリハ適応病名判断、疾患別リハの選択、障害診断、機能訓練の指示、患者背景を踏まえたゴール設定を行う事ができる。
- ・ リハビリテーション科専門医との連携、多職種共同のカンファレンスを通じて適切な退院支援を行う事ができる。
- ・ ICF、ならびに ICF モデルの理解と活用を行う事ができる。
- ・ 原疾患治療とリハビリテーションを並行して実施する事ができる。
- ・ リハビリテーション専門医、セラピストとの共通言語を理解し、カンファレンス等でのディスカッションを通じてリハの方針を決定できる。
- ・ 身体障害等の各種診断書の作成スキルを習得し、患者ケアに活かす事ができる。

【フェローの課題と評価】

以下の 2 種類のレポートを提出する事を課題とする。指導医による On the Job Assessment、ならびにレポートの俯瞰によりフェローのパフォーマンス評価を行う。

①各疾患別リハビリテーションのケースレポート

- ・ 提出するケースは、呼吸器疾患、運動器疾患、脳血管疾患、廃用症候群、がん、の 5 領域より 3 領域以上を選択し、合計 6 例とする。
- ・ 記載する内容は、病歴、身体所見、検査所見、診断・臨床推論所見と入院の判断、リハビリテーション適応病名判断、疾患別リハビリテーションの選択、障害診断、機能訓練の指示、患者背景を踏まえたゴール設定、原疾患の治療経過、機能訓練の経過と最終成果、転記について記載する。リハビリテーションカンファレンスを通じた、フェロー自身の省察が含まれる事が望ましい。
- ・ 日本リハビリテーション医学会の臨床認定医を受験する場合には、10 例のケースレポート作成が必要(詳細は学会ウェブサイトを参照³⁾)

②ICF モデル⁴⁾を踏まえて患者理解を行った事例のレポート

1 例を提出する。

【教育方略】

<教育コンテンツ>

①オリエンテーション

- ・ 研修カリキュラムの説明:教育目標, 教育方略, 研修課題と評価についての情報提供.
- ・ 一般的な診療のローカルルール, 電子カルテ使用方法についての情報提供.
- ・ リハビリテーション処方についての情報提供(疾患別リハ適応病名, 障害診断, ゴール設定, 個別訓練内容, リスク管理と制限)

②リハビリテーション専門医からの指導

- ・ リハビリテーション処方に対するフィードバック
- ・ 入院時多職種回診(基本動作, 嚥下スクリーニング, サルコペニア, CGA7 などの評価), 嚥下造影検査の同行見学, 実地指導, ならびに修練後の実施
- ・ ICF レクチャー, ICF カンファレンス

③セラピストとの連携

- ・ 病棟カンファレンスでのディスカッション(毎週水曜日午後)
 - ・ 退院前訪問・院外リハへの同行見学
 - ・ 退院前共同指導でのプレゼンテーション
- ※ 当院では病棟カンファレンスは多職種参加で行うリハビリテーションカンファレンスとして開催している。主治医, 病棟看護師, セラピスト, MSW より情報共有を行い, 治療方針の確認や退院支援を行っている。

④On the Job Training

- ・ Common disease の入院患者に対するリハ処方.
- ・ 原疾患治療と同時並行のリハビリテーション医療の提供.
- ・ リハ目的の転院患者の初期評価, リハ処方, 退院支援.
- ・ 地域の医療・介護リソースを把握し, 適切に活用・連携する.
- ・ 身体障害認定適応患者のキャッチアップと診断書作成.
- ・ 3ヶ月に1回の指導医との振り返り.

<研修中の duty>

- ・ 内科部門における外来・入院患者の診療を行い, 中小病院の家庭医療の実践を行う.
- ・ 担当患者は, 家庭医・総合診療医として Common Problem を担当する.
- ・ 週1-2単位の家庭医療科外来診療, 救急外来診療を行う.
- ・ 学生, 初期研修医, 他職種の教育を行う.
- ・ 週1回の家庭医療セミナーに参加し, 家庭医療・総合診療専攻医教育を行う.

<オプション研修>

空いている単位に, 検査研修や他診療科単位研修(眼科, 耳鼻科 等)を組み込む選択肢もあり.

<週間スケジュール例>

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
午前	入院時回診	入院時回診	入院時回診	外来	ICF レクチャー	病棟
午後		嚥下造影	病棟リハカンファ		救急外来	
時間外			家庭医療セミナー			

※空きコマに病棟診療やオプション研修の実施

【処遇】

- ・ 出雲市民病院常勤医師として採用し、給与・賞与・諸手当等は法人規定に従う。当法人は育児支援制度(時短勤務や時間有給の取得)、院内保育園も有している。
- ・ 社会保険は、健康保険、厚生年金保険、雇用保険、労災保険、医師賠償保険に加入しており、法人の共済会による各種助成制度もある。
- ・ 研鑽に対する支援として、学会・研修会参加に関する補助は年2回まで、DynaMed購読料に対する補助を行う。
- ・ 当直業務は院内規定に従い従事する。

【応募方法】

受付窓口: 出雲市民病院・出雲家庭医療学センター事務局 足立祐貴
 〒693-0021 島根県出雲市塩冶町 1536-1 出雲市民病院
 TEL: 0853-21-2722 FAX: 0853-21-8101
 E-mail: igakusei.icfm@izumo-hp.com

【参考文献】

- 1) 若林秀隆, 喜瀬守人, 岡田唯男. 若手家庭医はリハビリテーション領域の臨床能力獲得に関してどのように考えているか 質的研究. 家庭医療. 2010; 15(2): 4-15.
- 2) 齋藤正美, 大塚吉則, 若林秀隆. 総合診療専攻医のリハビリテーションに対する意識と教育研修のあり方. 理学療法科学. 2017; 32(2): 301-306.
- 3) 日本リハビリテーション医学会 認定臨床医の認定に関する内規
http://www.jarm.or.jp/jarm/document/rules/jarm_rules_IV.pdf#page=9
- 4) 厚生労働省. 「国際生活機能分類—国際障害分類改訂版—」(日本語版)の厚生労働省ホームページ掲載について. <https://www.mhlw.go.jp/houdou/2002/08/h0805-1.html>

本パンフレットの著作権は出雲家庭医療学センターに帰属します。
無断転用を禁じます。

Copyright (C) 2019 The Izumo Centre for Family Medicine All Rights Reserved.